

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第45号
2020(令和2)年9月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

大和機での2作品目 — 緯緋の工夫緋:「地上の星」—

大和機(やまとばた)を用いて織った2作目の作品を、1年4ヶ月ぶりに織り上げることができました。整経長400cm。整経重140g。織り巾39cm。経糸数728本。織り上がりの長さ335cm。織筵45度。緯糸密度18本。湯のし後の巾38cm。長さ324cm。重量240.0g。経糸は30番双糸です。地糸に藍紺を用い、浅葱(あさぎ)、瓶覗(かめのぞき)、薄紫(うすむらさき)を配しました。緯糸は14番単糸で藍紺の糸と緋糸を用いました。作品としては15筋の縦縞に緯緋が入る工夫緋(くふうがすり)となります。

今後の参考資料とするために、整経から織り上げまでの記録を以下に記しておきます。

整経は、2019年10月6日。織り巾40cmとし1cm9羽の竹筵を使用。双羽で1cm18本。基本の経糸は18本×40=720本。両端に2本取りを加えて総経糸数は728本となります。縞柄は1種類。浅葱2本、瓶覗2本、薄紫4本、瓶覗2本、浅葱2本。以上12本で1縞を構成します。縞は15筋のため12本×15縞で色糸は180本。720本から色糸180本を差し引いて地糸は540本となります。本来であれば両端合わせて1筋の縞が入る計算のため、1縞分12本を引いて528本。縞と縞の間の地糸の列は16列であるため、528本を16列で均等に配するとすれば33本となります。ただし奇数は不可能であるため、32本の列と34本の列を作ることになりました。32本×8=256本。34本×8=272本。合わせて528本となります。

糸枠は、右から浅葱1枠、瓶覗1枠、薄紫2枠、瓶覗1枠、浅葱1枠、地糸6枠の順で並べます。縞は1種類のため、色糸は各糸枠を1本ずつ取ります。地糸は32本取りと34本取りがあるため、32本取りでは地糸5枠×2+地糸6枠×1=32本。34本取りでは地糸5枠×1+地糸6枠×2=34本。ただし、両端のみ本来の1縞分12本を振り分けてそれぞれ6本ずつ加え、さらに2本取りを加えるために10本ずつ足さなければなりません。42本取りでは地糸5枠×3+6枠×1=42本。44本取りでは地糸5枠×2+6枠×2=44本とします。

こうして、地糸は32本×7=224本。32本+10本=42本。34本×7=238本。34本+10本=44本。合計548本。ここに色糸180本が加わり、総経糸数728本となります。

使用した緋糸の括り枠1周の長さは82.5cm。糸の縮みを考慮すれば、織巾40cmの緯糸に丁度です。今回の緋は2縞飛ばしに×を描くような模様です。両端合わせて1縞と考えれば、40cmに4つの×が入ることとなります。括り枠は1往復分の模様を入れることができるため、1周を8等分して糸を括ります。括る長さは1括り5mmです。緋柄は、天から天までの長さを8cmとし、1mに約12.5回の柄を入れました。1柄には18段の糸が入るため18段×12.5=225段。整経長4mのため225×4=900段の緋糸が必要となります。緋糸は100本を1束にして括るため、1束で200段となり、900÷200=4.5束。予備を含めて緋糸を5束括りました。

巻き取り2019年11月10日。綜統通し2020年4月6日。筵通し2020年6月5日。織り付け6月14日。織り上げ8月9日。

相楽木綿伝承館機織り教室では、織り上げた自分の作品には題名を付け、基本データと共に布地の一部を縞見本として提出することになっています。題名は「地上の星」。



大和機で織り上げた緯緋(工夫緋)

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年8月24日~令和2年9月23日)

茨城県1、奈良県3

【H.A.M.A.木綿庵】(令和2年8月24日~令和2年9月23日)

メールを含む各種相談件数8、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数6件9名



《綿の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その8－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。△:×=曇り一時雨。8月26○:×、27○:×、28×、29○:×、30○、31○、9月1△|○、2△|○、32△|○、4○|△、5○|△、6△|○、7○、8○、9△|×、10△|×、11△|×、12○、13△|○、14○|△、15○、16○、17△、18△:×、19○、20○、21○、22○:×、23○|△、24△、25×。

9月上旬に収穫盛期に入り、9月中旬から下旬にかけて収穫最盛期を迎えています。ただ、全体として徒長の傾向が顕著です。これまであまり気に留めなかった樹勢ですが、本誌第42号巻頭に示した『日本棉作要説』の言葉が身にしみます。古人からは「木を作るより綿を作れ」との声が聞こえてきそうです。

なお、2020年産の害虫防除は、6月7日に前年同様のアディオオン乳剤（ペルメトリン乳剤。住友化学株式会社）とエルサン乳剤（PAP乳剤。日産化学工業株式会社）混合の1,500倍希釈液を綿木の全株に散布。また、洋綿にのみ8月14日にスミチオン乳剤（MEP乳剤。住友化学工業）の1,000倍希釈液を散布しました。和綿は比較的被害が少なかったため、虫害を受けた葉をすべて摘み取るだけでその後薬剤は散布していません。

写真左より：1号畑の山辺綿（赤木）。1号畑の洋綿。緑のポールからはじけた洋綿のコットンブランチ。徒長が顕著な7号畑。



〈収穫祭を分散開催〉 第1回：令和2年9月12日（土）、第2回：9月21日（月・祝）

例年11月3日に開催している公開イベントの「収穫祭」を、今年は新型コロナウイルス対策として1回の参加者を5名に限定し、完全予約制で6回に分けて開催することにしました。9月12日の第1回「綿摘み&綿織り体験」は4名参加。9月21日の第2回「綿摘み&糸紡ぎ（スピンドル）」には6名の方にご参加いただきました。みなさん熱心に取り組んでくださり、カメラで記録写真を撮ることを忘れてしまいました。なお、スマホで撮影した写真はInstagramにアップさせていただきました。Instagram「you_and333」参照。

【綿の加工の作業記録】（梅田1人の作業量）

- 糸車を用いての糸紡ぎ量（和綿：平成30年、2018年産。丹羽正行氏による打ち綿）
8月24日～9月23日（作業実日数21日） 糸の総量51.3g（13.7匁） 総時間185分（3時間5分）
※1分間≒0.277g 1時間≒16.6g（4.4匁）

【研修等の記録】

- 令和2年8月27日 「農畜産物インターネット販売研修会」（桜井市）参加。会場はNAFIC 講堂。
- 令和2年8月28日 同上。2日目。主催：奈良県豊かな食と農の振興課 販売・流通係。
- 令和2年8月30日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」（京都府相楽郡精華町）にて、3作目の設計相談。
- 令和2年9月01日 「NAFIC」（桜井市）短期農業研修：実習。秋キュウリの植え付け。支柱立て。
- 令和2年9月03日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」（京都府相楽郡精華町）にて、整経。
- 令和2年9月04日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」（京都府相楽郡精華町）にて、巻き取り。
- 令和2年9月06日 「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技」展（奈良国立博物館）見学、鑑賞。
- 令和2年9月07日 「NAFIC」（桜井市）短期農業研修：講義。病虫害防除Ⅱ、環境保全型農業Ⅱ。
- 令和2年9月08日 内閣府「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」近畿ブロック研修会参加（奈良コンベンションセンター：奈良市）
- 令和2年9月10日 「NAFIC」（桜井市）短期農業研修：実習。ハウスの解体。畝立て。セルポット管理。
- 令和2年9月12日 収穫祭①「綿摘み&綿織り体験」を開催。1号畑にて。参加者4名。
- 令和2年9月13日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」（京都府相楽郡精華町）にて、綜統通し①。
- 令和2年9月15日 奈良県「子ども・若者支援機関研修」（奈良県庁橿原総合庁舎）令和2年度第4回参加。
- 令和2年9月17日 「NAFIC」（桜井市）短期農業研修：実習。露地野菜の定植、播種。大根、白菜ほか。
- 令和2年9月20日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」（京都府相楽郡精華町）にて、綜統通し②。
- 令和2年9月21日 収穫祭②「綿摘み&糸紡ぎ体験（スピンドル）」を開催。1号畑にて。参加者6名。